

令和 2 年 6 月 8 日現在

機関番号：16201

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12229

研究課題名(和文)在宅認知症高齢者の医療的ケアに関する急変時対応包括連携システムモデルの構築

研究課題名(英文) Development of a Comprehensive Collaborative System Model for Medical Care of Elderly People with Dementia at Home in Emergency Situations

研究代表者

松本 啓子 (Matsumoto, Keiko)

香川大学・医学部・教授

研究者番号：70249556

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,700,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、在宅認知症高齢者の急変時対応に関する医療的ケアにおける包括連携システムモデル構築へ向けた示唆を得ることを目的とした。文献検討の結果、急変時対応に関する認知症高齢者に特化した文献は非常に限局されていた。在宅認知症高齢者の急変時対応等に関する医療的ケアを提供する医療施設側またはその職種に焦点をあて、包括的視点を含めた多職種連携の現状や実態の調査を行った。その結果、急変時対応のマニュアルはあるが機能的に用いられていなかった。多職種へのインタビューを実施した。その結果、地域包括ケアシステム下での認知症高齢者の家族介護者に特化した急変時対応を踏まえた連携の困難さが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2000年に施行された介護保険制度は、改正を重ね、地域包括システムの理念を推し進めている。本研究では、在宅認知症高齢者の急変時対応に関する医療的ケアにおける包括連携システムモデル構築へ向けた示唆を得ることを目的とした。家族や介護職者である介護者は、認知症高齢者の急変時対応にストレスを感じており、特に医療的ケアを必要とする際は、ストレスが高い。対応マニュアルも現実的に役割をはたしていなかった。また急変時の対応を自己判断で行う際に、逆に急変した高齢者を危険にさらす場合がある。しかし、多職種における地域包括連携システム構築には地域的限界があり、進まないであろうと感じていることが明らかとなった。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to obtain hints for building a model of a comprehensive collaborative system for medical care of elderly people with dementia at home in the event of an emergency. As a result of the literature review, the literature specific to the elderly with dementia regarding emergency response was very limited. We surveyed the current state and status of multi-professional collaboration, including a comprehensive perspective, focusing on medical facilities and their occupations that provide medical care for elderly people with dementia at home in the event of an emergency. As a result, a manual for emergency response was available but not functionally used. Multi-professional interviews were conducted. The results suggest that it is difficult to collaborate with family caregivers of elderly people with dementia under the community comprehensive care system in the light of their specialized response to sudden changes.

研究分野：在宅認知症高齢者

キーワード：在宅認知症高齢者 医療的ケア 急変時対応 包括連携システム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国は、地域包括ケアシステムの強化のために介護保険制度等の改正を進めている。2018年度には介護・医療に関する法律のトリプル改正があり、ますます地域や貧困における介護格差が広がりつつある。

福祉の職場では、離転職率の高さに加えて、介護現場で中核的な役割を担う介護福祉士の養成校への入学希望者激減から生じる重篤な人材不足という喫緊の課題もある。介護職者としての働き甲斐に対して、労働条件への不満足感や働きにくさ等、環境調整や施設整備不足を提示する割合が高く、離転職希望者が調査施設の半数近くに上る報告もある¹⁾。人材としての観点では、介護職者の離転職を促進する要因の一つに、組織および職場環境の側面における医学的知識の不足感による急変時対応の不安や負担がある²⁾。介護の現場では、仕事そのものに価値を見出したうえで、やりがいを感じながらの仕事の継続を基盤に据えており、性差において特に男性への期待は大きく、今後リーダー役割を担う管理職候補人材としての側面を有する。老人介護の仕事へ向き合う際のストレスは、仕事の楽しさや満足感と関連しており³⁾、その仕事内容や場面を踏まえた設定等、仕事の楽しさに着目した分析を行うことで、介護現場の離転職の状況が明らかになる可能性がある。

介護老人福祉施設の介護職者においては、今後さらに医療的に重症度が高く、合併症等のハイリスク状態にある高齢者たちと向き合わなければならない。従来、介護職者は医学的知識不足に関する不安を抱えながら、24時間365日実際の介護を行っている⁴⁾。入所者の高齢化とともに、重症化している状況下で入所者が急変を起こした場合、日頃からケアに携わる介護職者は、様々な不安を抱えながら対応することになる。もちろん有事には、医師や看護師等が対処する。しかし現実には、途切れなく入所者の側でケアに携わっている介護職者が、医療的なケアに関わる権限を制限された状況で、緊急の対応を迫られることもある。事実、介護労働者を対象とした調査では、日頃の介護の仕事の中での悩みや不安のひとつとして、夜間の急変対応への不安や判断の困難さが報告されている。医学的知識が必要とされる急変の予測判断および対応は、医療職が役割と責任を担っているとはいえ、実際に急変時対応に携わった介護福祉士は、急変に伴う死となった際に「自己の過失」として捉え、罪悪感から強いストレスを経験する。これらのことから介護職者が経験する急変時のストレスは、介護職者にとって、仕事継続の断念あるいは離転職に少なからず影響をもたらすものと推察される。事実、仕事の楽しさ等の前向きな気持ちが離転職意向に影響を及ぼす⁵⁾が、介護職者の急変時対応に関わるストレスが、職務上のやりがいや仕事の楽しさとどのような関連をしているのかを実証的に明らかにした研究はない。また、連携を目的とした地域医療を取り巻く専門職者の中で、中核ともいえる地域の医師の思いを明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

(1) 介護老人福祉施設に所属する介護職者の急変時対応ストレスと仕事の楽しさとの関係を明らかにする。

(2) 地域在住の医師を対象に地域包括ケア連携に対する思いに関して、質的因子探索的分析を通して明らかにする。

3. 研究の方法

(1) Lazarus, R.S.らのストレス認知理論を援用したうえで、介護者の急変時対応ストレスが仕事の楽しさに関係するとした因果関係モデルを構築し、そのモデルのデータに対する適合性と変数間の関連性を構造方程式モデリングにより検討した。なお、上記の分析にあたっては、対象

者の基本属性等を統制変数として分析モデルに投入した。

以上の分析において、パラメータ（母数）の推定には、頑健性のある重み付け最小二乗法（WLSMV）を使用し、推定されたパラメータの有意性は、検定統計量の絶対値が 1.96 以上（有意水準 5%）を示したものを統計学的に有意であると判断した。モデルのデータに対する適合性は、適合度指標である Comparative Fit Index(CFI)(0.9)と Root Mean Square Error of Approximation(RMSEA)(0.10)により判断した。統計パッケージには、SPSS Statistics22.0、及び Mplus Version3.12 を用いた。本研究では、最終的に 1,887 名分の調査票配布数に対して、437 名（回収率：23.2%）から回答を得た。統計解析には、これら 437 名分のデータのうち、性別、年齢、職種、就労形態等、資格条件設定を満たす、統計解析に必要な調査項目に欠損値を有さない 181 名分のデータを使用した。

(2) 地域包括ケアシステムが進む中、多職種連携は重要なカギとなるが地域格差も大きい。地域においてリーダー的役割を担うことの多い医師に着目し、連携に関する認識を明らかにすることで、地域医療における今後の方向性への示唆を得られる可能性がある。

在宅支援診療所の医師の在宅医療における連携に関する認識について、インタビュー調査にて明らかにすることを試みた。

在宅診療所の医師を対象に、研究概要及び倫理的配慮に関する説明の後、同意を得られた医師を研究参加者とした。在宅医療における連携に関する認識を問う半構成的質問紙を基にインタビューを実施した。なお、研究者の所属する機関での倫理審査委員会にて承認を受けて実施した。インタビュー内容から、質的因子探索的に分析を進めた。カテゴリー化のプロセスにおいて定期的に看護学及び質的研究の専門家におけるスーパーバイズを受けた。

4. 研究成果

(1) 欠損値処理の結果、分析対象者数は 181 名であった。分析対象とした介護職者 181 名の内訳は、男性 39 名（21.5%）、女性 142 名（78.5%）、であり、年齢は 21 歳から 67 歳であり、平均 40.7 歳（ ± 11.5 歳）であった。就労形態は常勤が 163 名（90.1%）、非常勤もしくはパートは、18 名（9.9%）であった。医療福祉に関わる仕事における経験年数では、12 カ月から 409 カ月までで、平均 106 カ月（ ± 72.4 カ月）、急変時対応マニュアルの有無については、有が 171 名（94.5%）、無が 10 名（5.5%）であった。

介護職者の急変時対応ストレス評価に関しては、妥当性の検証として、構造方程式モデル（SEM）を用いて、確認的因子分析を行った。その結果、 $\chi^2=113.57$ （df=45）、CFI=0.96、RMSEA=0.09 と概ね良好な適合度を示した尚、パス係数については、すべて統計学的に有意であった。

介護職者の急変時対応ストレスを構成する 5 つの下位因子と属性および仕事の楽しさとの関連性を構造方程式モデリングにより検討した結果、モデルのデータに対する適合度は、 $\chi^2=127.76$ （df=70）、CFI=0.97、RMSEA=0.07 と良好な数値を示した。介護職者の急変時対応ストレスと属性及び仕事の楽しさとの関連性に着目すると、介護職者の急変時対応ストレスのうち「知識・余裕不足ストレス」が、「仕事の楽しさ」と統計学的に有意な負の関連を示した（標準化係数：-0.33）。統制変数として投入した介護職者の属性等に注目すると、「性別」が「仕事の楽しさ」と有意な正の関連を示した（標準化係数：0.21）。「マニュアルの有無」は、「体制・環境ストレス」と負の関連を示し（標準化係数：-0.33）た。そのほかに投入した属性とは有意な関連を示さなかった。なお、分析に投入した変数の介護職者の急変時対応ストレスの「知識不足ストレス」及び「判断ストレス」に対する説明率は、それぞれ 4.9%、7.5%であった。また、

介護職者の急変時対応ストレス尺度の「仕事の楽しさ」に対する説明率は、17.9 %であった。

(2) 参加者は、40 歳代後半の男性 1 名。医師としての経験は 17 年。在宅医療を始めてからは 9 年になる。

在宅医療における連携に関する認識としては、6 カテゴリー 見守りから生活を支える 地域の暮らし方を啓蒙する 最期を考える場をつくる 職種間の理解を深める 連携を進める 町としてアピールしたい 人材の有効活用が地方の生き残り が抽出された。

地域での連携には、アピールの方法が重要となる。見守り、環境を整え、人材を大切に多職種で支えながら患者と家族に寄り添う重要性を認識している。また生活の質を見つめ、在宅生活ならではの知識の啓蒙が重要と捉えている。今後事例を増やすことで精度を高め、分析を進める必要がある。

< 引用文献 >

阿部正昭，西村昌記，西原留美子，岩田香織：施設介護職員の職務継続・離職意向と「労働条件」「働きやすさ」「働きがい」に関する調査研究，東海大学健康科学部紀要，16,65-73(2011)。

松本啓子，桐野匡史：施設入所の認知症高齢者の急変時対応に関する福祉職員の思い，*インターナショナル Nursing Research*，4(2)57-68(2015)。

矢富直美，中谷陽明，巻田ふき：老人介護スタッフのストレス評価尺度の開発，*社会老年学*，34,49-59(1991)。

Matsumoto K ,et at al.: Measurement of Care-Related Needs of Family Members Caring for Demented Elderly Patients at Home,*日本保健科学学会誌*,8(3),105-115(2005)。

廣橋容子:高齢者施設職員の介護意識に関する調査研究,30,1-5(2012)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 21件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Yoshimi Tsunekuni, Keiko Matsumoto	4. 巻 24
2. 論文標題 The Meaning of 'Assertion' for Mothers of Children/Persons with severe motor and intellectual disabilities at home from School-Age to Young Adulthood	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Japanese Journal of Research in Family Nursing	6. 最初と最後の頁 26-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 那須明美, 松本啓子	4. 巻 38
2. 論文標題 がんリハビリテーションにおける看護師とセラピストとの協働に関する思い セラピストの思	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護科学学会誌	6. 最初と最後の頁 64-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桐野匡史, 出井涼介, 松本啓子	4. 巻 32
2. 論文標題 家族介護者を対象とした仕事と介護の役割葛藤と離職意向の関連性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会医学研究	6. 最初と最後の頁 43-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 常国良美, 松本啓子	4. 巻 49
2. 論文標題 医療的ケアが必要な在宅重症心身障害児・者の母親のアサーションの意味 学童期から青年期の子どもをもつ母親に焦点をあてて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集: 在宅看護	6. 最初と最後の頁 59-62
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 那須明美, 松本啓子, 常国良美, 亀高泰世	4. 巻 38
2. 論文標題 病院に勤務する看護師のインタープロフェッショナルワークに関するコンピテンシーの文献検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 日本看護科学会誌	6. 最初と最後の頁 82-88
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 那須明美, 松本啓子	4. 巻 48
2. 論文標題 がんリハビリテーションにおける看護師とセラピストとの協働に関する思い がん看護専門看護師教育課程を修了した看護師の語りから	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 第48回日本看護学会論文集:看護教育	6. 最初と最後の頁 134-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千智, 野村みさき, 名越恵美他	4. 巻 17
2. 論文標題 整形外科病棟において認知症高齢者のケアに対して看護師が抱いている困難さ	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 インターナショナルNursing Care Research	6. 最初と最後の頁 31-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桐野匡史, 松本啓子	4. 巻 なし
2. 論文標題 介護と仕事に関するアンケート調査結果	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 家族介護者の介護離職の予防に向けた社会的サポート・システムの構築に関する調査研究報告書	6. 最初と最後の頁 1-46
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀高泰世, 坂井真愛, 常国良美, 伊東美佐江, 松本啓子	4. 巻 26
2. 論文標題 香港における高齢者を取り巻く医療福祉の現状 - 現地での視察から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 川崎医療福祉学会誌	6. 最初と最後の頁 284-290
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 19
2. 論文標題 福祉の現場から 在宅認知症高齢者の急変時対応に関するマネジメントモデルの開発 介護老人福祉施設の職員の認識から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 68-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 19
2. 論文標題 在宅認知症高齢者の急変時対応に関するマネジメントモデルの開発 - 介護老人福祉施設の職員の認識から -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子, 名越恵美, 常国良美, 伊東美佐江	4. 巻 47
2. 論文標題 認知症高齢者の急変時対応への看護師の思い 介護老人福祉施設に所属する看護師への聞き取り調査から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本看護学会論文集:ヘルスプロモーション	6. 最初と最後の頁 178-181
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 19
2. 論文標題 福祉の現場から 在宅認知症高齢者の急変時対応に関するマネジメントモデルの開発 介護老人福祉施設の職員の認識から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Matsumoto K., Masaki H., Kawai N., Kuwata M., Yoshioka S., Nishiyama M., Sakai S., Endo K., Uchino R., Hayashi Y., Teshima M, Nagae H.	4. 巻 2
2. 論文標題 Review on the Elements Related to the Development of End of Life Care Quality Evaluation Index that Enriches the Final Years of the Elderly	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 J Nurs Patient Care	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.4172/2573-4571.1000118	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 20
2. 論文標題 福祉の現場から 在宅認知症高齢者の急変時対応に関するマネジメントモデルの開発 介護老人福祉施設の職員の認識から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 72-77
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 19
2. 論文標題 在宅認知症高齢者の急変時対応に関するマネジメントモデルの開発 - 介護老人福祉施設の職員の認識から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 48-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 18
2. 論文標題 福祉の現場から 在宅認知症高齢者の急変時対応に関するマネジメントモデルの開発	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 64-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桐野匡史, 桑田菜摘, 出井涼介, 松本啓子	4. 巻 33
2. 論文標題 在宅で高齢者を介護する家族のソーシャルサポートと介護負担感の関連性	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 社会医学研究	6. 最初と最後の頁 51-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 桐野 匡史, 出井 涼介, 松本 啓子	4. 巻 22
2. 論文標題 在宅で高齢者を介護する家族のソーシャル・ネットワークの類型化とその特徴	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 岡山県立大学保健福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 65-73
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Mika Moriyama, Misae Ito, Keiko Matsumoto	4. 巻 3
2. 論文標題 difficulties Faced by Critical Care nurses Involved in Family DNAR Decision-making	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Japan Society for End-of-life Care	6. 最初と最後の頁 3-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松本啓子	4. 巻 21
2. 論文標題 介護老人福祉施設に所属する介護職者の認知症高齢者の急変時対応に関する認識	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 地域ケアリング	6. 最初と最後の頁 78-83
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計44件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 29件)

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Masafumi Kirino
2. 発表標題 A Study of job satisfaction and the stress of responding to sudden changes among nursing care professionals associated with nursing care homes for the elderly
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Misae Ito, Claudia Yuk Lai, Daphne Sze Ki Cheung, Sick Bee Tan, Yoshimi Tsunekuni, Yasuyo Kametaka, Sadao Katayama, Masafumi Kirino
2. 発表標題 Relevance between the Awareness of Supporting Elderly Parents, the Sense of Being burdened by Nursing, Coping, and the Mental Health of Family Caregivers with Dementia
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akemi Nasu, Keiko Matsumoto, Kyoko Yamaguchi
2. 発表標題 Review of documents related to the fertility of female cancer survivors in Japan,
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1 . 発表者名 Akemi Nasu, Keiko Matsumoto
2 . 発表標題 Thoughts regarding interprofessional work between nurses and therapists in cancer rehabilitation: Focusing on the thoughts of a speech-language therapist
3 . 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Ayako Mitsui, Takako Hiramatsu, Kyoko Hosokawa, Miho Ono, Keiko Matsumoto, Misae Ito
2 . 発表標題 Significance of cancer support group engagement for cancer patients and spouses
3 . 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Daphne Sze Ki Cheung, Alex Molasiotis, Wee Ching Foo, Siok Bee Tan, Keiko Matsumoto, Misae Ito, Usanee chotphoksap, Clare Yu, Yu Wen Evelyn Poh, Daniel Lok Lam Lai, Cludia Yuk Lai
2 . 発表標題 A Cross-Cultural Comparison of the Burden of Caring for People with Dementia
3 . 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1 . 発表者名 Keiko Matsumoto, Misae Ito, Daphne Sze Ki Cheung, Alex Wee Ching Foo, Siok Bee Tan, Usanee chotphoksap, Cludia Yuk Lai, Yasuyo Kametaka, Yoshimi Tsunekuni, Sadao Katayama, Masafumi Kirino
2 . 発表標題 Awareness of Supporting Elderly Parents by Family Caregivers in Households with Home-Bound Elderly with Dementia
3 . 学会等名 29th International Nursing Research Congress (国際学会)
4 . 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Harue Masaki, Nobuko Kawai, Midori Ishibashi
2. 発表標題 Literature review about the quality index that classified continuation, cooperation of the elderly people care into the field
3. 学会等名 The 5th CJK Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Akemi Watanabe, Akemi Inayama, Chinami Doi, Megumi Nagosh
2. 発表標題 Literature review about family caregivers and regional cooperation of elderly people with dementia at home
3. 学会等名 The 5th CJK Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Jiang Bo, keiko Matsumoto
2. 発表標題 Thought about the everyday living in Japan of China orphans; Health Aspect
3. 学会等名 The 5th CJK Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Akemi Inayama, Keiko Matsumoto
2. 発表標題 Review of literature on reflections about nursing student clinical practicums
3. 学会等名 The 5th CJK Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本啓子, 伊東美佐江, 名越恵美, 亀高泰世, 常国良美, 土井智菜実, 桐野匡史
2. 発表標題 認知症高齢者の多い老人福祉施設に所属する看護師の急変時ケアに関する思い
3. 学会等名 日本老年社会科学会第60回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本啓子, 亀高泰世, 常国良美, 桐野匡史
2. 発表標題 在宅認知症高齢者の家族介護者の介護に関する認識 医療に特化した思いに着目して -
3. 学会等名 日本老年看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本啓子, 三島佳子, 斎藤千慧, 手銭雛子, 中原百香
2. 発表標題 在宅での看取り後の家族介護者の満足感と支援に関する文献検討
3. 学会等名 第23回日本在宅ケア学会学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 松本啓子, 正木治恵, 河井伸子, 石橋みゆき
2. 発表標題 在宅高齢者のケア継続を視野に入れた地域連携に関する文献検討
3. 学会等名 日本看護研究学会第44回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Yasuyo Kametaka, mana Sakai, Misae ito
2. 発表標題 A thought on spouses' nursing care life of elderly cancer patient with severe medical care at home
3. 学会等名 22nd EAFONS 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Keiko MATSUMOTO, Mise ITO, Masafumi KIRINO, Claudia KY LAI, Daphne CHEUNG, Sick Bee TAN
2. 発表標題 PERCEPTION ON CULTURAL JUSTIFICATIONS FOR CAREGIVING OF PERSON WITH DEMENTIA:A SYSTEMATIC REVIEW IN JAPAN
3. 学会等名 ADi2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keiko MATSUMOTO, Yoshimi TSUNEKUNI, Yasuyo KAMETAKA, Masafumi KIRINO
2. 発表標題 A male caregiver's understanding of his involvement with medical services while nursing his wife with dementia:A case inJapan
3. 学会等名 ADi2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akemi Nasu, Keiko Matsumoto
2. 発表標題 Thoughts regarding Interprofessional Work between Nurses and Therapists
3. 学会等名 12th Asia Pacific Hospice Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akemi Nasu, Keiko Matsumoto
2. 発表標題 Thought of an Occupational Therapist about the Cancer Rehabilitation
3. 学会等名 12th Asia Pacific Hospice Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Yoshimi Tsunekuni, Yasuyo Kametaka, Ai Shiraisi, Megumi Nagoshi, Masafumi
2. 発表標題 The consideration which became the age of the Senescence ; Focusing on Family in which Dementia Care is Provided by Spouse
3. 学会等名 12th Asia Pacific Hospice Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Megumi Nagoshi, Keiko Matsumoto
2. 発表標題 Support of Nurses providing telephone consultation service to cancer patients in terminal phase of disease and their family members
3. 学会等名 12th Asia Pacific Hospice Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Yoshimi Tsunekuni, Yasuyo Kametaka, Ai Shiraishi, Masafumi Kirino
2. 発表標題 Elderly's Expectations about Successful Aging of Life
3. 学会等名 12th Asia Pacific Hospice Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akemi Nasu, Keiko Matsumoto
2. 発表標題 Thoughts regarding interprofessional work between nurses and therapists in cancer rehabilitation: Focusing on the thoughts of a speech-language therapist
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Akemi Nasu, Keiko Matsumoto, Kyoko Yamaguchi
2. 発表標題 Review of documents related to the fertility of female cancer survivors in Japan
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Masafumi Kirino
2. 発表標題 A Study of job satisfaction and the stress of responding to sudden changes among nursing care professionals associated with nursing care homes for the elderly
3. 学会等名 21st East Asian Forum of Nursing Scholars & 11th International Nursing Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本啓子, 名越恵美, 伊東美佐江, 常国良美, 亀高泰世
2. 発表標題 在宅認知症高齢者の急変時対応に関する文献検討 - 医療的ケアに着目して -
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 医療的ケアを要する在宅療養者で支える家族介護者に関する文献検討
2. 発表標題 医療的ケアを要する在宅療養者で支える家族介護者に関する文献検討
3. 学会等名 第2回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松本啓子, 伊東美佐江, 名越恵美, 亀高泰世, 常国良美, 中桐亜紀, 土井智菜実, 桐野匡史
2. 発表標題 在宅認知症高齢者の医療的ケアにおける急変時対応に関する文献検討
3. 学会等名 第2回岡山県地域包括ケアシステム学会学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 名越恵美, 山形真由美, 大浦まり子, 松本啓子
2. 発表標題 在宅看取りを成し遂げた事例に関するサポート要因の分析
3. 学会等名 日本看護科学学会第36回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Hattori Keiko, Ito Misae, Keiko Matsumoto, Ono Satoko
2. 発表標題 Family functioning as a predictor of preferable patterns of end-of -life decision-making among Japan elders
3. 学会等名 日本看護科学学会第36回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本啓子, 名越恵美, 常国良美, 伊東美佐江
2. 発表標題 認知症高齢者の急変時対応への介護者の思い - 介護老人福祉施設に所属する看護師への聞き取り調査から -
3. 学会等名 第47回日本看護学会 ヘルスプロモーション学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Megumi Nagoshi, Masafumi Kirino
2. 発表標題 Consideration to death of the people who have that in the direction old period and an aged people period
3. 学会等名 The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Megumi Nagoshi, Masafumi Kirino
2. 発表標題 The consideration which become the age of the senescence
3. 学会等名 The 3rd KOREA-JAPAN Joint Conference on Community Health Nursing (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 松本啓子, 常国良美, 亀高泰世, 伊東美佐江
2. 発表標題 福祉施設の役職を有する看護師の急変時ケアに関する思い 認知症高齢者に着目して
3. 学会等名 日本家族看護学会学術集会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Misae Ito, Keiko Matsumoto
2. 発表標題 Tackling Challenges in Long-team Care for Older Populations:An InternationalPerspective
3. 学会等名 Centr for Gerontological Nursing,School of Nursing Inaugural Conference (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto,Misae Ito,Claudia LAI ,Daphne CHEUNG,Siok TAN,Foo Ching
2. 発表標題 Recognition about the Care of the family Caregivers Caring for the Elderly People with Dementia symptom at Home
3. 学会等名 14Th Intwernational family Nursing conference (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松本啓子,伊東美佐江,名越恵美
2. 発表標題 在宅療養高齢者の家族介護者の最期に向けた同居での介護の在り方への思い
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 keiko Matsumoto,Misae Ito,Claudia LAI ,Daphne CHEUNG
2. 発表標題 Thought about the care of elderly parent with dementia judging from the cultural side of Japan
3. 学会等名 23rd East Asia From of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Misae Ito, Simpei Hayashi, Masafumi Kirino
2. 発表標題 Thought regarding Accommodation of Sudden Changes by a Nurse at an Elderly Care Facility
3. 学会等名 23rd East Asia Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Keiko Matsumoto, Misae Ito, Simpei Hayashi, Masafumi Kirino
2. 発表標題 Thought for the medical institution of the spouse caring for the husband with YOD
3. 学会等名 23rd East Asia Forum of Nursing Scholars (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計8件

1. 著者名 小池将文, 松本啓子, 伊東美佐江, 他	4. 発行年 2018年
2. 出版社 日本医療企画株式会社	5. 総ページ数 493
3. 書名 介護職員初任者研修課程テキスト3 こころとからだのしくみと生活援助技術	

1. 著者名 小池将文, 松本啓子, 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本医療企画株式会社	5. 総ページ数 495
3. 書名 実務者研修テキスト6老年期の疾病と認知症・障害の理解改訂	

1. 著者名 小池将文, 松本啓子, 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 日本医療企画株式会社	5. 総ページ数 340
3. 書名 実務者研修テキスト7 介護に関わるころとからだ改訂	

1. 著者名 小池将文, 松本啓子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 株式会社 日本医療企画	5. 総ページ数 362
3. 書名 実務者研修テキスト7 介護に関わるころとからだ	

1. 著者名 小池将文, 松本啓子	4. 発行年 2017年
2. 出版社 株式会社 日本医療企画	5. 総ページ数 494
3. 書名 実務者研修テキスト6 老年期の疾病と認知症・障害の理解	

1. 著者名 松本啓子, 正木治恵, 真田弘美他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 南江堂	5. 総ページ数 397
3. 書名 看護学テキストNICE老年看護学概論 改訂第3版	

1. 著者名 小池将文,松本啓子,他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本医療企画株式会社	5. 総ページ数 498
3. 書名 実務者研修テキスト6老年期の疾病と認知症・障害の理解 改訂	

1. 著者名 小池将文,松本啓子,他	4. 発行年 2020年
2. 出版社 日本医療企画株式会社	5. 総ページ数 340
3. 書名 実務者研修テキスト7介護に関わるこころとからだ 改訂	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	名越 恵美 (Nagoshi Megumi) (20341141)	岡山県立大学・保健福祉学部・准教授 (25301)	
研究分担者	伊東 美佐江 (Ito Misae) (00335754)	山口大学・大学院医学系研究科・教授 (15501)	
研究分担者	桐野 匡史 (Kirino Masafumi) (40453203)	岡山県立大学・保健福祉学部・准教授 (25301)	